

2022年3月22日

第9回エクセレントNPO大賞 「コロナ対応チャレンジ賞」講評

1. コロナ対応チャレンジ賞と審査の視点

コロナ対応チャレンジ賞は、第8回エクセレントNPO大賞に際して、新型コロナウイルス禍の厳しい状況下でも、常に前を向いて精力的に活動を続けるNPOの取り組みを応援するために創設されました。

皆さんが、活動を継続する上での困難をどのように克服したのか、課題や経験、知見を広く社会で共有したいという思いも、この賞には込められています。

評価の基準はエクセレントNPO基準をベースとしつつ、審査の項目数は通常の部門賞の3分の1に絞りました。審査にあたっては、コロナ下で外出自粛など様々な制約がある中、「どのような課題に取り組み、活動継続のためにどのような工夫をしているのか」という点などに重きを置きました。

2. 審査結果

(1) ノミネート団体

「コロナ対応チャレンジ賞」にご応募いただいた団体の中から、次の5団体が最終審査にノミネートされました。子育て支援や国際協力、虐待・DV防止、高齢者サポートなどの分野で活動されている皆さんです。このうち2団体が初めての応募でした。

① 「あびこ・シニア・ライフ・ネット」

2002年に千葉県我孫子市に暮らす高齢者へのパソコン・サポート活動をスタートさせ、高齢者向けパソコン教室「デジタル塾」の運営にあたられてきました。庭木の手入れや草刈り、電球の取り換えなどの「便利屋事業」にも取り組まれています。

コロナ禍でオンライン・イベントが増えたことを踏まえ、Zoom会議やスマホの入門講座を新設され、高齢者の交流機会拡大に寄与したと評価されました。また、ワクチン接種予約の無料代行など、きめ細かい活動も続けられています。ホームページをリニューアルし、小学生向けのプログラミング講座の受講応募者が増えたということですが、こうした取り組みを今後も続けられることを期待したいと思います。情報発信にもっと力を入れられると、活動をより多くの人に知ってもらえるのではないのでしょうか。

② 「ケアブレンド」

2020年7月の設立以来、仙台市を拠点に交流の場「ケアブレンドカフェ」の開催などを

通じて市民同士がつながり、助け合う仕組みづくりに取り組まれ、子ども、ヤングケアラー、ひとり親家庭、高齢者、外国人などを支援する活動を続けられています。

コロナ禍の長期化に伴って児童虐待やDV、認知症に関する相談が急増したことを踏まえ、広い場所を新たに確保し、感染防止対策を徹底した上で、対面方式のカフェを積極的に開催するなど、活動継続のための工夫を重ねられてきました。

新たに助成金を獲得してサービスの拡充につながられたほか、大学や高校での呼びかけを行い、コロナ禍で活動の機会を失った学生・生徒たちにボランティアとして参加する場を提供し、取り組みの裾野を広げられたことも評価されました。

③ 「こまちぶらす」

「孤立した子育てをなくしたい」という思いで2012年2月にママ友達6人で立ち上げられ、13年4月からNPO法人として活動されています。神奈川県横浜市で、子育てしている人と支援者らが集う「こまちカフェ」の運営にあたられてきました。

コロナ禍で「カフェ」の飲食はテイクアウトやオンラインショップに切り替えつつ、子育て中の人が集う場として店舗を活用するなど、上手に工夫を加えてこられました。

分散登校などで家庭の負担が増えたことに着目し、子どもの食事をサポートする取り組みを始められたのが特筆されます。孤立しがちな妊産婦対象のオンライン「おしゃべり会」の開催や、マスクで表情が読み取れない聴覚障害者向けの「透明マスク」の制作企画なども含め、持ち前の細かい、優しいサービス精神を生かされました。

④ 「SALASUSU」

今回初めての応募でした。貧困層出身のカンボジア女性たちが工房兼学校でバッグなどのものづくりに携わっています。読み書きやコミュニケーションなどの訓練も実施し、2008年以来、約270人に雇用と教育の機会を提供してきました。

コロナ禍で工房の活動停止や直営店舗の閉鎖、日本からの工房訪問ツアーが事実上の中止に追い込まれましたが、オンラインをフル活用して事業継続に努められました。リモートインターン制度の導入等の新しい形での人材確保や、クラウドファンディングによる資金調達に取り組まれた点も注目されました。

スタッフ間の意思疎通促進のために朝礼にズンバを取り入れるなど独自の取り組みを続け、コロナ危機を組織強化の機会として捉える前向きな発想が目を見せました。

⑤ 「DAREDEMO HERO」

こちらも今回初めての応募です。フィリピンの貧困層の中から、社会問題を解決するリーダーを育成する目的で2013年に活動を始められ、2019年にNPO法人を立ち上げられ、奨学生支援などに取り組まれています。

コロナ禍に伴うロックダウンで学生たちが自宅学習を強いられている状況に着目さ

れ、パソコンの貸し出し、Wi-Fi 機器の設置等によって奨学生がオンライン授業を受けられる環境を整えるなど、学生目線で支援を実施された点が評価されました。

主要財源であった「スタディーツアー」が中断を余儀なくされ、活動の延期や休止という選択肢もある中で、助成金の獲得やクラウドファンディングの活用などにチャレンジし、不屈の精神で危機に柔軟に対応するしなやかさを発揮されました。

(2) コロナ対応チャレンジ賞

審査会で協議の結果、以上のノミネート団体の中からコロナ対応チャレンジ賞は「DAREDEMO HERO」に決定いたしました。

ノミネートされた団体は皆さん、コロナの感染が続く中、さまざまな工夫をこらして、課題に取り組んでいます。とりわけ、「DAREDEMO HERO」は、世界最長とも言われる長期的なロックダウンが実施されたフィリピンへの支援活動を継続するための努力を多角的になされている点が評価されました。

フィリピンでは、コロナ禍で多くの貧困層の人々が職を失うなど、社会・経済に甚大な影響が及んでいます。現地には、引越しや困り事などの時に力を合わせる慣習があり、「助け合い」を意味する「バヤニハン」という言葉があるそうです。コロナ禍で社会に閉塞感が広がる中、「DAREDEMO HERO」の取り組みは、私たちひとりひとりに「助け合い」の大切さを思い起こさせてくれます。